

# 特集：AIとChatGPT

政治はどう動く？ 権利保護か技術革新か？

1.

**ChatGPT とは？**

2.

**ChatGPT の衝撃**

3.

**実演ChatGPT**

4.

**ChatGPTの課題**

4.

**どうするChatGPT**

# 1.ChatGPTとは？

## ChatGPT

米国OpenAIが開発したテキスト生成AI

2022年11月30日発表



### AIが扱う対象

- ① 言語
- ② 画像
- ③ 音声
- ④ 制御
- ⑤ 推論

### AIの機能

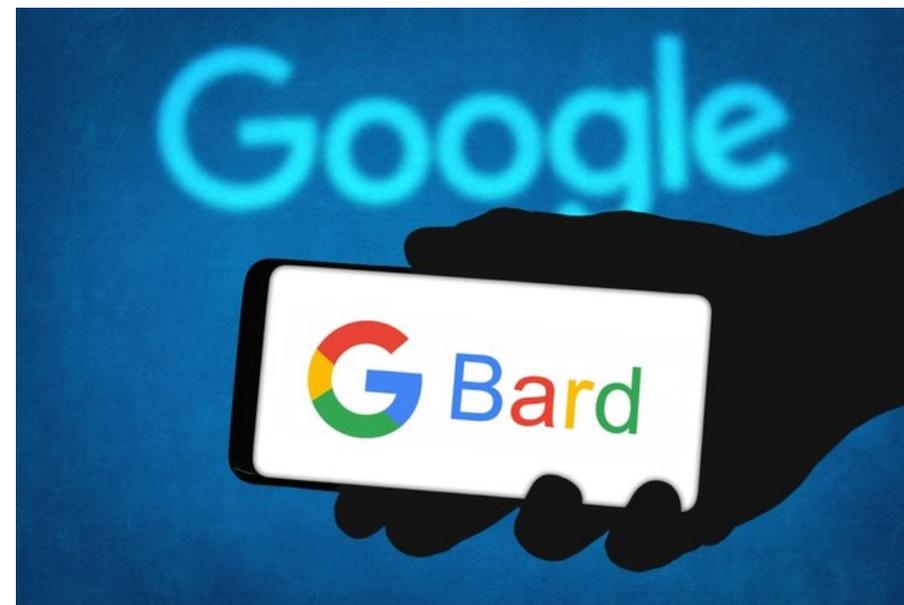
- ① 生成系
- ② 会話系
- ③ 予測系
- ④ 識別系
- ⑤ 実行系

# ChatGPTのライバル

1. Bard

2. Sparrow

3. ERNIE Bot



出典：<https://news.yahoo.co.jp/articles/48f7aaf7feb1e0d2f88073b202d9c7ae210dc9c4>



出典：<https://it-mixer.com/baidu-pravi-ernie-bot-generativni-ai-chatbot-baziran-na-jezickom-modelu-vecem-od-gpt3/>

# ChatGPTをめぐる出来事

2015年：OpenAIの設立

2017年：GoogleがTransformerモデルを発表

2018年：OpenAIがGPTを発表

2019年：OpenAIがGPT2を発表

2020年：MicrosoftがOpenAIに10億ドル投資

：OpenAIがGPT3を発表

2022年：OpenAIがChatGPTを発表

# Microsoft vs Google

2022年11月30日 : OpenAIが**ChatGPT**を発表

2022年12月21日 : **Google**のCode Red報道

2023年 1月23日 : **Microsoft**がOpenAIに追加出資

2023年 2月 6日 : **Google**が**Bard**を発表

2023年 2月 7日 : **Microsoft**がAI搭載**Bing**を発表

1. 質問の回答
2. 情報の検索
3. 文章の添削
4. 歌詞の作成
5. コードの生成

## 2. ChatGPTの衝撃

# Google「コード・レッド」宣言

ChatGPTのリリースでGoogleは「コードレッド」を宣言、AIチャットボットが検索ビジネスにもたらす脅威に対応するためにチームを再割り当て



AI開発団体のOpenAIが発表した「**ChatGPT**」は、自然言語処理モデルの「**GPT-3**」の進化系である「GPT-3.5」がベースになっており、質問文を打ち込むと人間が書いた文章と見分けが付かないほどに高精度の文章で回答してくれます。そんなChatGPTの登場に、ユーザー数世界最大を誇る検索エンジンを持つGoogleの経営陣が事業に対する深刻な脅威への警戒を示して「コード・レッド」を宣言したと報じられています。

出典 : Gigazine 2022年12月23日 (<https://gigazine.net/news/20221223-google-code-red-against-chatgpt/>)

# わずか2か月でユーザー1億人

AIの“自然な回答”に衝撃 話題の「ChatGPT」とは？世界で“1億人”利用【解説】

国内

The infographic features a central illustration of a person at a computer with a monitor displaying 'ChatGPT' and 'Capabilities'. To the right, there are several text boxes and images. At the top right, a red circle with the word '衝撃' (Shock) is next to the text '無料のAIが世界を変える?' (Free AI changes the world?). Below this, a red banner states '1億人が利用 ChatGPT' (Over 100 million people use ChatGPT). A central black box contains the title '対話型AI「ChatGPT」' (Conversational AI 'ChatGPT'). To the right of the illustration, a box with a photo of Elon Musk says 'イーロン・マスク氏らが設立「OpenAI」が開発' (Developed by OpenAI, founded by Elon Musk). Below that, a yellow box states '去年11月 サービス開始' (Service started last November) and 'わずか2か月で月間アクティブユーザー数 推定1億人超' (Within 2 months, the number of monthly active users is estimated to exceed 100 million). At the bottom left, a red box says '質問入力' (Question input) with a downward arrow pointing to '自然な会話で返答' (Answer with natural conversation). At the bottom right, a box with a photo of Bill Gates says 'インターネットの発明と同じくらい重要' (As important as the invention of the internet) and 'これは私たちの世界を変えるでしょう' (This will change our world). A small box below this photo identifies him as 'マイクロソフト創業者の一人 ビル・ゲイツ氏' (One of the founders of Microsoft, Bill Gates).

衝撃 無料のAIが世界を変える?  
1億人が利用 ChatGPT

対話型AI「ChatGPT」

AIを使った自動会話システム

質問入力

自然な会話で返答

イーロン・マスク氏らが設立「OpenAI」が開発

去年11月 サービス開始  
わずか2か月で月間アクティブユーザー数  
推定1億人超

インターネットの発明と同じくらい重要  
これは私たちの世界を変えるでしょう

マイクロソフト創業者の一人  
ビル・ゲイツ氏

# 肯定的な意見／否定的な意見



- 1.非常に自然な会話ができる
- 2.質問への回答レベルが格段に高い
- 3.文章のもっともらしさが抜きんでている
- 4.言い回しや論理構成が人間的
- 5.時には回答を拒む柔軟性もある



- 1.回答にひどい誤りが含まれる
- 2.架空の理論をでっちあげる
- 3.中学校の数学問題も解けない
- 4.発想力や描写力がまだまだ乏しい
- 5.表面的なだけで実は無能

## 1. 学習への利用

👉 **先生ではなくChatGPTに質問！**

## 2. 論文の執筆

👉 **論文の執筆者にChatGPT！**

## 3. レポート作成への利用

👉 **ChatGPTでレポート作成！**



1. ChatGPTを活用した就職支援サービス
2. 主要8言語に対応した議事録作成AI
3. ChatGPTを使った法律相談
4. 回答を自動生成する顧客対応チャットボット
5. ChatGPTを活用したヘルスケアチャットボット

# 3. 实演ChatGPT

# 教えてChatGPT：“「表現の自由」の闘い方”



## 「表現の自由」の闘い方 (星海社新書) 新書 - 2022/3/24

山田 太郎 (著), 赤松 健 (著)

★★★★☆ 22個の評価

すべての形式と版を表示

Kindle版 (電子書籍)

¥1,143

獲得ポイント: 79pt

今すぐお読みいただけます: **無料アプリ**

新書

¥1,155

獲得ポイント: 35pt

¥173 より 20 中古品

¥1,155 より 33 新品

¥2,510 より 1 コレクター商品

はじめての本の購入で  
10%ポイントプレゼント

> [エントリーはこちら](#)



2点すべてのイメージを見る

# 教えてChatGPT：回答



『「表現の自由」の闘い方』山田太郎 (著)について教えて。



『「表現の自由」の闘い方』は、山田太郎氏が著した書籍で、出版は2015年になります。この書籍は、表現の自由について考え、闘うことの重要性について説いたものです。

この書籍では、表現の自由がいかに重要であるか、それが脅かされている状況があること、そして表現の自由を守るためにはどのような闘い方が必要かについて、山田太郎氏の考え方が述べられています。

具体的には、表現の自由を守るためには、個人や団体が主体的に闘い、情報を発信することが必要であるとしています。また、表現の自由に対する脅威や損害に対しては、法的手段を利用することも重要であるとの立場をとっています。

この書籍は、表現の自由に関心のある人や、表現の自由を守るために何か行動を起こしたいと考えている人にとって、参考になる一冊です。

# 教えてChatGPT：“「表現の自由」の守り方”



著者をフォロー

## 「表現の自由」の守り方 (星海社 e-SHINSHO) Kindle版



山田太郎 (著) | 形式: Kindle版

★★★★☆ (5 stars) | 15個の評価

すべての形式と版を表示

Kindle版 (電子書籍)

¥914

獲得ポイント: 9pt

今すぐお読みいただけます: **無料アプリ**

新書

¥221

¥221 より 20 中古品

¥2,679 より 7 新品

¥4,840 より 1 コレクター商品

※ この商品には出版社独自のフォントが実装されています。より良い読書体験を得るためには、iOS・Android端末での閲読を推奨します。それ以外の環境では、独自フォントでの正しい表示を保証できません（通常フォントでの閲覧には問題ありません）。

私たちは、これからもマンガ・アニメ・ゲームを楽しみつづける！

▼ [続きを読む](#)

# 教えてChatGPT：回答



『「表現の自由」の守り方』山田太郎 (著)について教えて。



『「表現の自由」の守り方』は、山田太郎氏が著した書籍です。山田氏は、元々はジャーナリストとして活躍していましたが、現在は作家としても活動しています。

この書籍は、表現の自由がどのように制限されることがあるのか、そしてどのようにそれを守るべきなのかという問題を扱っています。具体的には、報道の自由やインターネット上の表現の自由など、さまざまな側面から表現の自由に関する問題を取り上げています。

山田氏は、表現の自由が守られることが民主主義の基盤であると主張し、その重要性を訴えています。また、表現の自由に関する制限がある場合には、それがどのようなものであるか、そしてその制限が妥当であるかどうかを検証することが必要だとしています。

この書籍は、表現の自由に関心のある人や、ジャーナリズム、法律、政治などの分野で働く人々にとって役立つ一冊となっています。

# 4 .ChatGPTの課題

1. マルウェアの生成
2. フィッシング・メールの作成
3. フェイク・ニュースの拡散

## ChatGPTのサイバー攻撃への悪用

対話AIの悪用防止は困難



単純な依頼は断るが、用途を偽ればサイバー攻撃のツールを作成

出典：日本経済新聞2023年2月17日『[対話型AI、サイバー攻撃に悪用の恐れ 米政府が警鐘](#)』

1. ChatGPTの生成物が著作物として保護されるか？

👉 そもそも著作物として保護すべきか

2. ChatGPTの生成物が著作物の場合の著作者は誰か？

👉 AI自身やAI開発者を著作者と認める余地があるか

3. ChatGPTの生成物によって著作権侵害が成立するか？

👉 AIによるコンテンツ生成に依拠性が認められるか

**1. E U : AI規制法案**

**2. 米 国 : AI権利章典**

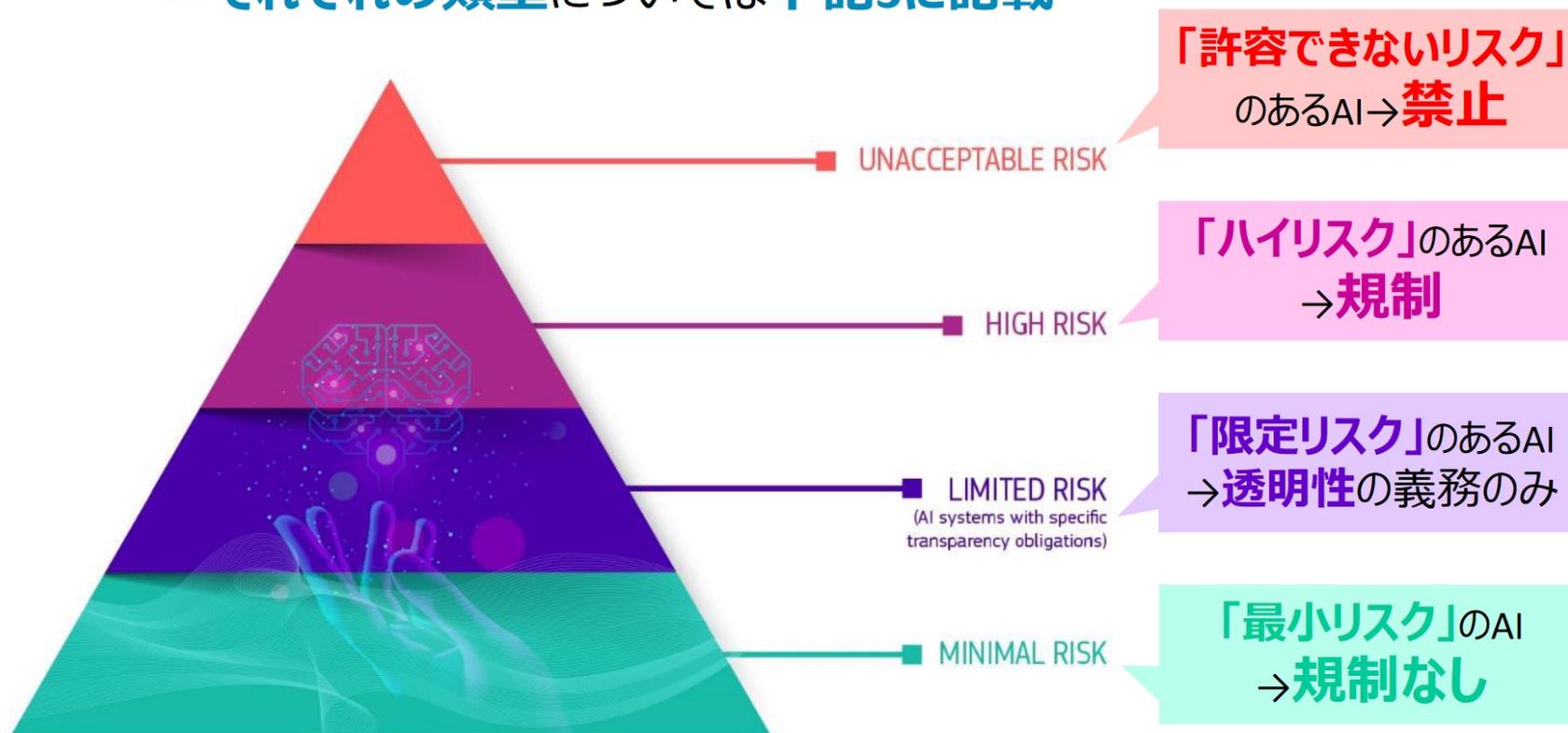
**3. カナダ : AI・データ法案**

**4. 中 国 : 次世代人工知能ガバナンス計画等**

**5. 日 本 : AI原則実践のためのガバナンス・ガイドライン**

## — 最大の特徴 : 「リスクベースアプローチ」 —

- リスクに応じて、規制内容を変える
  - それぞれの**類型**については下記3に記載



## AI開発の5原則

- ① 安全で効果的なシステム
- ② アルゴリズムに基づく差別からの保護
- ③ データ・プライバシー
- ④ 通知と説明
- ⑤ 人間による代替、考慮、予備的措置

- ① 影響力の大きいAIシステムの開発・利用に際して、潜在的な危害やバイアスを特定・是正するよう保証し、カナダ国民を保護する
- ② 同法の監督責任を持つイノベーション・科学産業相を支援するAI・データコミッショナーを設置し、企業のコンプライアンス監視、第三者による監査命令、他の規制当局や執行機関との情報共有を行う
- ③ AI開発用に不正取得したデータの使用がみられる場合や、AIの「無謀な」使用が深刻な被害をもたらす場合、AIの使用で実質的な経済的損失をもたらす不正な意図がある場合を対象とした、明確な刑事上の禁止事項と罰則を提示する

# 中国：次世代人工知能ガバナンス原則

- ① 調和・友好（人類共通の福祉の増進）
- ② 公平公正（製品研究開発および利用過程における偏見と差別の除去）
- ③ 包摂・共有（包摂的な発展の促進、AI 教育および科学普及強化、社会的弱者の適応力の向上、デジタルデバイドの解消など）
- ④ プライバシーの尊重
- ⑤ 安全性・制御可能性（透明性、解釈可能性、信頼性など）
- ⑥ 責任の分担（各ステークホルダーによる社会責任感および自律意識の具備、リスク・影響の告知など）
- ⑦ 開放・協力（国内外の連携、交流の推進）
- ⑧ 迅速対応（AI 発展計画の尊重、リスクの迅速な発見・解決）

# 日本：AI原則実践のためのガバナンス・ガイドライン

## アジャイル・ガバナンスの採用

関連箇所：C.

- マネジメント体制の整備とリスク管理のための行動目標をアジャイル・ガバナンスの枠組みに沿って提示

